

# みんなの ひろば



※上のイラストは、題字と同じ内容を指文字と手話で表したものです。

## 主な 内容

- 役員からのメッセージ…………… 2
- 地域とともに～地域交流活動～…………… 3  
(岩手県立療育センター、共同生活事業所「八幡平」)
- ホットトピックス…………… 4、5  
(共同生活事業所「二戸」、和光学園、みたけ学園・みたけの園、好地荘)
- 岩手県障がい者芸術活動支援センター「かだあると」…… 6
- シリーズ 時の足跡 ～10年を振り返って～…… 7
- 平成29年度職員提案制度入賞者紹介
- 製品紹介…………… 8
- 新採用職員紹介

第 **129** 号

平成30年12月1日  
発行

## 響けわんぱく太鼓!! よさこいソーランと共に!!



福祉型障害児入所施設  
たばしね学園

7月29日、松風園・好地荘の夏祭りに招待を受け、たばしね学園の子どもたちによる和太鼓とよさこいソーランを披露しました。限られた日程の中、夏の暑さにも負けずに一生懸命練習を重ねてきました。本番では、子どもたちの元気いっぱいの演舞と迫力のある和太鼓の演奏に、ご来場のお客様からも沢山の拍手を頂きました。今回のような行事に参加したのは活動を再開してから初めてのことで、今後も更に発表の場を広めていきたいと思っております。これからたばしね学園わんぱく太鼓をよろしくお祈いします。

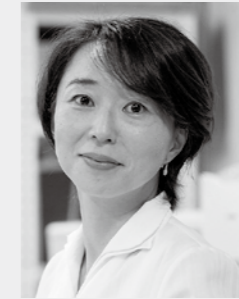


本番に向けて練習も頑張るぞ～!

当事業団には、8名の役員がいます。今回は、監事のお二方からメッセージをいただきました。

役員からのメッセージ

～事業団に期待すること～



監事  
鈴木 都美子

昨年度から監事を務めさせていただいております。鈴木都美子と申します。もともとは、事業団本部近くの税理士事務所にて税理士として仕事をしております。前任の青山良一郎先生の退任後、税理士として事業団の運営の監査に携わっております。

これまで仕事上は、介護福祉施設を経営する法人の経営・税務上のお手伝いはしていましたが、事業団の監事就任のお話をいただいた際、これだけ大きな組織の監事としての重責を感じました。しかし、これからの事業団の進展のために、少しでもお役にたてればと思い、お引き受けした次第です。

就任してからこれまで、いくつかの事業団各施設の監査をいたしました。どの施設も、施設長はじめ職員の皆様が、直面する種々様々な問題に誠実に真摯に向き合っておられる姿勢を拝見いたしました。

事業団には、民間の法人と比し、広域での施設運営により大局的な視野を持ち、これまでの長い期間で培われた経験豊かな優秀な職員さんが数多くいらっしゃいます。事業団だからこそ出来る事がたくさんあるように思います。

昨年度からは、社会福祉法人制度改革に対応した会計監査法人による監査も導入されました。これまでに以上に、ガバナンスの強化、財務規律の強化が求められています。法人としての経営力の強化、効率的な経営を図りながら、ここ岩手で障害福祉の理念を、より地域に根付かせていただけるよう希望しております。

私は、昨年12月から監事を仰せつかっております。県職員として34年間のほとんどを福祉の仕事に携わり、退職後には、県社会福祉協議会に5年間お世話になりました。

私が福祉を志したことに理由があります。それは、軽度でありながらも、持って生まれた障がいなかなか受容できず、葛藤したこと。そうした自分を障がいのある人の姿と重ね合わせることで、障がい者や家族等の理解者の一人として、力になれることがあるのではないかと考えたからでした。

職員の皆様も、福祉について様々な「思い」を持っておられることでしょう。福祉を辞書で見ると、幸福とあります。幸福を目指すことが福祉と同じ意味とするならば、事業団とは「福祉の思いを抱き、幸福の実現を願う人の集まり・組織体」と言えるのではないのでしょうか。

組織のあるべき姿や役割に関しては、様々な理論や取り組みが提起され実践されています。業務改善・コンプライアンス確立等々、いずれも重要な取り組みであります。

しかし、福祉事業に携わる者としてより大切なことは、関係する全ての人々とともに、福祉という言葉の意味理解と、目指すべきことをしっかり意識し、己の振舞いを律しながらも、心の豊かさを保つことであろうと思います。

県内で、福祉に関わる最も大きな組織体である県社会福祉事業団には、他の社会福祉法人の模範として、「経営方針」に立脚した、誠実かつ着実な実践を強く期待するとともに、職員一人ひとりの取り組みが、県全体の福祉の進展に寄与していくことを願って止みません。

監事  
古内 保之



右手県立  
療育センター  
～サマーフェスティバル～

夏真っ盛りの7月27日(金)、サマーフェスティバルが開催されました。同フェスティバルは、これまでも毎年の恒例行事として開催してきました。今年1月、センターが新築移転したことに伴い、出演団体やボランティア等、新たに地元矢巾町の皆様にもご協力頂くこととなりました。



職員もソーランダンスで熱く盛り上がりました!!

可愛らしいダンスに和まされたりと、盛り沢山の内容でした。



模擬店をぐるりと巡回中。次はどの店へ行こうかな?

また、模擬店についても、今回から町内の福祉事業所に出店をお願いし、利用者の皆さんも販売品のパンに舌鼓を打つなど、リニールされたフェスティバルを大いに楽しんだ様子でした。

その他、車輛の誘導係を矢巾町民生委員、JA共済連によるボランティアの皆様を中心にお願ひするなど、運営に際しては、地元住民の方々の力による部分が大きいと感じた次第です。

今後長きに渡り、この地で事業を継続していくにあたっては、地域の皆様を理解と協力が不可欠です。

センターが矢巾の地に根を張り、真に地域の一員となれるよう、このようなイベントの機会を通じ、さらなる地域交流を図りたいと思っておりますので、今後どうぞ宜しくお願いいたします。

(右手県立療育センター 育成部長 田中茂樹)

当事業団では、日頃から地域の方々との交流活動に積極的に取り組んでいます。今回は、2つの施設・事業所の活動について、紹介します。

地域とともに  
～地域交流活動～

共同生活事業所  
「八幡平」  
～発達障がい学習会～

中山の園岩手・八幡平エリア担当部は、平成30年度の公益活動として、8月28日に西根地区市民センターにて「発達障がい研修会」を開催しました。小雨の降る中での開催となりましたが、当日は地域住民の方や行政、支援機関など幅広い方にご参加いただきました。



会場からは活発な質問が飛び交い、説明にも熱が入ります。



発達障がいの方々の見え方・感じ方を疑似体験

係長から「障がいを知ろう」発達障がいってどんな障がい?というテーマにて講演いただき、発達障がいの基本的な概要、具体的な事例、体験を通じた見え方感じ方、接する際に気を付けることなどを学ぶことができました。参加者の方から「日々の行動について理由を知ることができた」「見えにくい部分で苦労していることがわかった」「またこのような研修を開いてほしい」といった感想をいただきました。

今回の研修のみで終わりとせず、引き続き地域の方々との繋がりを大切にしながら、障がいのある方々の住みよい町づくりのお手伝いをさせていただきます。

(共同生活事業所「八幡平」 副所長 三浦範子)

役員・評議員のご紹介 (平成30年12月1日現在)

理事及び監事	理事長	水野和彦
常務理事兼事務局長	朽木正彦	
常務理事兼中山の園所長	鈴木昭彦	
監事	鈴木美津子	
	藤田泰	
	鈴木都美子	
	古内保之	

※役職ごと五十音順

評議員

伊藤昇	久保田博	千田光久	橋本隆	米田ハツエ	三上邦彦	八重樫幸治	吉江暢洋
-----	------	------	-----	-------	------	-------	------

※五十音順

## 共同生活事業所「二戸」

### 「新設グループホーム」「すいせんホーム」

6月1日、長年お世話になった二戸市福岡にある「ベガサスホーム」から、市内石切所の「すいせんホーム」での新生活をスタートしました。



新築の「すいせんホーム」

た建物は平屋建て、スプリングクラー設置の貸し物件です。急な依頼でしたが、市内業者の理解を得られ、間取や設備など要望を取り入れて頂き、快適な生活空間になりました。



大崩崖が目の前に!!

ホームの自慢は、窓から見える馬淵川の清流を挟んでそびえ立つ景勝地、「大崩崖一帯」の景色です。時折、車を止めて写真を撮っている方もいらつしやるほど。入居者の皆さんも窓から景色を見ながら部屋決めを行うほどの絶景です。

新しいホームで、素晴らしい景色を眺めながら、これからも仕事に余暇に楽しみ、未永くご利用いただけるようサポートしていきたいと思えます。

（共同生活事業所「二戸」）

副所長 上山真美

# ホッとピックス

当事業団では、児童、障害、救護等、様々な施設・事業所を運営しています。今回は4つの施設・事業所からHOT(ホッと)な話題をお届けします。

## 福祉型障害児入所施設「みたけ学園」 障害者支援施設「みたけの園」

「笑顔咲く「こりほつ」と活動」

今年度、みたけ学園・みたけの園では「こりほつと活動」に取り組んでいます。「こりほつと活動」とは、ひやりハットとは逆に、支援現場の中で「こり」としたことで、「ホッと」したことを共有していくことで、新たな視点から利用者支援をより良いものとしていく取り組みです。

みたけグループでは、この取り組みを利用者支援の場面だけでなく、職員間のコミュニケーションの一つとして取り組み、普段なかなか伝えられない感謝の気持ちや、何かをしてもらって嬉しかった気持ちを言葉にすることで、これまでに以上に風通しのよい職場作りを目指しています。

各寮棟から出た「こりほつと」は、みたけ学園・みたけの園の中央廊下に設置



きれいな花が咲いた「ありがとうの木」

された「ありがとうの木」に掲示しています。6月から開始したこの取り組みですが、少しずつ「ありがとうの木」がカラフルに彩られてきました。同じグループ内で働いていても、各事業所の様子をなかなか知ることが出来なため、事業所ごとの個性も垣間見える活動となっています。この取り組みを通し、これまでに以上に明るい雰囲気を持つ職員集団を目指し、利用者支援に繋げていきたいと思えます。

（みたけ学園 保育士 橋本陽子）

## 児童養護施設「和光学園」

### 「オープンキッチン」で「食に親しもう」

和光学園では、昨年度から幼児を対象に毎月オープンキッチンを実施しています。オープンキッチンとは、実際に幼児の目の前で調理することで食に対する興味や知識を醸成することを目的としている活動です。これまで、ハンバーグやふわとろオムライス等の洋食や、手巻き寿司、さんまのつみれ汁等の和食、春巻きや炒飯等の中華料理を季節に合わせて作り、子どもたちの食への関心を高めてきました。



調理に使う食材を見せて説明中。子どもたちも興味深々です。

回数を重ねるごとに、幼児からオープンキッチンを楽しみにしている声も聞こえてきます。

これまでの活動を通して、子どもたちが食材を着実に認識できるようになってきました。さらに、食材の知識だけでなく、魚のさばき方や卵の割り方、春巻きやワンタンの包み方等の調理方法を学び、体験することで子どもたちの積極性も育ってきています。今後も子どもたちへの食育として、継続しながら取り組んでいきます。

（和光学園 児童指導員 中嶋道子）



実際に包丁を持って切ってみます。どきどき…!



これ、なーんだ？食材を実際に触ったり、香りをかいでみたりします。

## 救護施設「好地荘」

### 「園芸活動で心も身体も元気に」

好地荘では、「健康グループ」と「受託作業グループ」の2つのグループ活動があり、今年度は、合同活動として、園芸活動（花植えと畑作業）を新たな試みとして実施しました。

園芸活動では、プランターや花壇にマリゴールド、サルビアなどの花々を、畑にはじゃがいもを植えました。



じゃがいも畑の草取り 暑い中でも、張り切って作業していました。

その後も月に1〜2回ほど活動日を設定し、草取りを実施しました。また、日々の水やりは、利用者の皆さんが毎日交替で行いました。さらに、みんなの会（利用者自治会）にて花壇や畑の名前を募集し、花壇は「四季の花壇」、畑は「希望の畑」となり、手作り看板も作成しました。

今年度は暑い日が多かったのですが、皆さん積極的に参加していました。普段は荘内で活動することが主ですが、屋外に出ることで生き生きとした表情となり、良い気分転換になったようです。

今年度の取り組みを踏まえ、来年度はさらに活動の幅を広げていきたいと考えています。

（好地荘 生活指導員 佐々木圭太）



みんなの会（利用者自治会）で看板を作成



皆さんで協力して花苗を植え替えました。

# 時の足跡 ～10年を振り返って～



今回、原稿依頼のお話を頂いた時、「あれ？10年でしたっけ？」と、つい聞き返してしまいました。とある行事で、チャリーダーのコスプレをして踊ったのは何年前のことか……。今の自分の身体では、あのコスチュームは入らないこと、動きのキレも残っていないことに気がつき、健康診断の結果に納得してしまっただけです。

採用からこれまでの自分を振り返ると、周りの皆様に助けられ、支えられてばかりでした。採用当時、自分の中だけで考え、立ち止まっていた私を見つけて先輩が発した、「これってどうでしたっけ？」。この一言で、多くのひとたちが集まり、一気に課題が前に進み始める様子を目の当たりにし、感動とともに感謝したことが思い起こされます。

現在、従事している相談支援業務においても、自分一人だけでは対応しきれないことが多くあります。一人で抱え込まず、たくさんの人たちと関わり、つながることで支援の道が開けていくこともありました。想いを実現している利用者の姿を見ていると、あの時の経験を少しは活かしているのかなと思っています。

まだまだ、道半ばではありますが、これからも利用者やご家族、職員、多くの方々と関わらせていただきながら、一緒に歩んでいきたいと思えます。今後とも、よろしく願いいたします。



相談支援事業所「まつやま」  
相談支援員  
前田 祐輝

この原稿依頼をいただいた時に、採用からもう10年目なのか、時の経つのは早いと実感しています。

私の簡単な自己紹介として、大学を卒業後、非常勤職員として6年間中山の園で働かせていただいた後、2009年から、正規職員として採用いただき、現在はたばしね学園で勤務しています。

非常勤職員時代から現在まで、ありがたい事に、勤務先でお会いした上司の方々や、仲間に恵まれました。仕事の上で、様々な問題に直面しましたが、上司の方々から解決に向けてのチームワークやリーダーシップ、組織の中での個人の役割というものを勉強させていただきました。そういった経験は、今でも問題に直面してきた時に、解決に向けた指針となっています。

現在まで障がい者施設、救護施設、障がい児施設で勤務させていただき、色々な利用者の方の支援をさせていただきましたが、常にニーズに対するサービスの提供、また質の向上を意識して業務に当たってきました。難しい問題、課題に直面し、自分の未熟さを感じながらも、利用者本位の考えは変わることなく、また時代とともに、変化していくニーズに対応できるよう日々研鑽しながら、支援者としても一人の人間としても成長できるようにこれからも努力していきたいと思えます。



福祉型障害児入所施設 たばしね学園  
職業指導員兼児童指導員  
高橋 潤



水野理事長から入賞者(または所属施設長)に表彰状を授与しました。

**平成29年度職員提案制度入賞者紹介**  
7月18日、平成29年度職員提案制度の表彰式が行われました。昨年度は、法人全体で286テーマの提案があり、その中から、5名が入賞しました。

**金賞**  
○塩倉 タイ子(障害者支援施設 こがし)「利用者対象の研修会開催」

**銀賞**  
○藤原 紀恵(福祉型障害児入所施設 たばしね学園)「人員確保につながる取り組みとして仕事をイメージ化できるものを作成する」  
○工藤 玲子(相談支援事業所 みたけ)「差別解消法への取り組み」

**銅賞**  
○中村 敬治(共同生活事業所 じゃんぱ)「名古屋グループホームの避難場所の見える化」  
○佐藤 俊子(障害者支援施設 つつじ)「受動喫煙防止に取り組み中！」  
(※所属は平成29年度)

平成30年  
9月3日開設

## 岩手県障がい者芸術活動支援センター「かだあると」のご紹介



「かだあると」は、岩手県障がい者芸術活動支援センターの愛称です。

「かだる」は参加する、集う、加わるという意味の岩手の方言。

「あると」は母語が異なる人の共通の言語となるよう作られた国際語エスペラント語で芸術を意味する「Arto」。エスペラント語は岩手を代表する作家、宮沢賢治とも馴染みの深い言語です。

障がいがあってもなくても誰もが参加できる「創作」「表現」の場を作る。そんな思いが込められています。

### 活動内容

#### 相談支援

創作活動支援に関する相談窓口を開設します。障がいのある人、その家族、事業所の職員等から支援方法や著作権等の権利保護に関する相談など、様々な相談を受け付けます。

**【受付方法】** 電話、FAX、メール  
(来所相談については事前にご相談ください。)

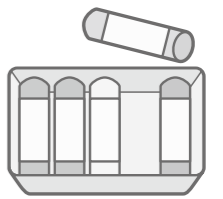
**【受付時間】** 9:00～12:00、13:00～17:00  
(土日祝日、年末年始を除く)

※相談は下記、お問い合わせ先まで。

#### 調査・発掘

県内福祉施設をはじめとする事業所などに対して、障がい者の芸術活動および支援活動の状況を知るための実地調査や作家の発掘調査を行います。

独創的な作品や作家さん、「これは作品と呼べるのだろうか?」と悩んでしまうモノまで、皆さまからの情報をお待ちしております。



#### 人材育成

創作活動に携わる人材の育成を目的とした研修会やワークショップ等を行います。また、研修会やワークショップを通して様々な分野の方とのネットワークを構築し、普及を進めていきます。

#### 権利保護

法律の専門家、障がい者アートを商品化する事業所や企業をお呼びし、著作権等の作者の権利保護に関する研修会や商品化に関する講演会等を行います。

### 岩手県障がい者文化芸術祭の開催

ふれあいランド岩手を会場に、県内の障がいのある人が日頃、取り組む文化芸術活動の成果である優れた芸術作品や音楽活動を紹介・発表・展示します。

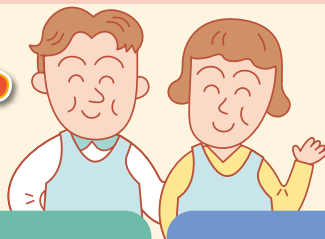


お問い合わせ、ご相談はこちらまで

〒020-0114 岩手県盛岡市高松三丁目7番33号  
岩手県社会福祉事業団 事務局内  
岩手県障がい者芸術活動支援センター「かだあると」

TEL:019-662-6851 FAX:019-662-8044  
E-mail: kadarto@iwate-fukushi.or.jp  
HP: http://www.iwate-fukushi.or.jp/  
(担当:尾形)

# 製品紹介



当事業団の施設・事業所では、様々な製品を作っています。今回は2つの施設・事業所の製品を紹介します。

## 地域生活支援センター 歩夢 (盛岡市)

「歩夢」は、皆さまに支えられて今年10年目を迎えました。「あゆむ弁当」「名刺」「すいとるんです」を販売しています。

これからも、皆さまの笑顔のために、まごころを込めて作っていきたく思いますので、よろしくお願いします。



日替わり「あゆむ弁当」

400円 (大盛プラス50円)



「名刺」 10枚～受付

カラー 1枚15円  
 白黒 1枚12円  
 点字入り 1枚プラス1円



「すいとるんです」

大 5個入り1パック 100円  
 小 3個入り1パック 50円

【問い合わせ先】 地域生活支援センター 歩夢  
 TEL 019-662-6852 FAX 019-662-6872

## 障害者支援施設 松風園 (花巻市)

従来からご愛顧頂いている自家焙煎コーヒーやお菓子に、新商品が加わりました。「ごまごまクッキー」はコロコロ可愛く風味良く、「チーズペッパークッキー」はおやつにおつまみに最高です。また、廃棄コーヒー豆を利用した「珈琲の香袋」は芳香剤としても、消臭剤としてもご利用いただけます。

すでに多くの方から好評をいただいております。皆様からのご注文をお待ちしております。



「ごまごまクッキー」「チーズペッパークッキー」  
 各150円



「珈琲の香袋」 本体200円 詰め替え100円

【問い合わせ先】 障害者支援施設 松風園  
 TEL 0198-45-3016 FAX 0198-45-3017

### 平成30年度 新採用職員紹介

4月16日採用  
 (総合職)



岩手県立療育センター  
 看護師  
 あいざわ  
 相澤 ゆかり

笑顔なたやさず頑張ります。

8月17日から法人ホームページに掲載いたしました。当法人が運営する障害福祉サービス事業所「地域生活支援センターかんばす」において、8月9日に非常勤職員による利用者への虐待事案が発生いたしました。

被害を受けた利用者様ならびに、ご家族様にご心配、ご迷惑をおかけしましたことを重ねてお詫び申し上げます。

また、地域の皆様、関係機関の皆様にも、大変ご心配、ご迷惑をおかけしましたことを重ねてお詫び申し上げます。

法人内全施設において支援状況等を調査確認するとともに、虐待事案を二度と起こすことがないように、施設長による全職員との面談実施や虐待防止研修の徹底等に取り組んでおります。

福祉サービス提供等について、利用者様やご家族、関係者の皆様から信頼を頂き、安心して利用していただける法人、施設運営を目指して法人、職員一丸となって努力してまいりますので、引き続き、ご理解、ご協力をいただきますよう、よろしくお願いたします。

岩手県社会福祉事業団 理事長

水野 和彦

## ご報告とお詫び